



奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

西新館

• 13th

Feature Exhibition:
**Treasures of Tōdaiji's
Omizutori Ritual**

[illegible]

前菩薩摩訶薩有菩薩精
進菩薩賢有菩薩志
樂也善色瞻養

同時開催

東大寺ミュージアム特集展示

学僧たちの修二会

しゆ に ち
修二会

2026年
2月7日〔土〕
3月15日〔日〕
東大寺ミュージアム「第4室
平30・8208 奈良市本町1-10 善地
電話 074-220-5111
<https://www.todaiji.or.jp/information/museum/>

特別陳列

2026年
2月7日〔土〕—3月15日〔日〕

특별진열
특별陳列展
御取水
— 東大寺法要 —
토다이지의 법회 오미즈토리



《報道関係者お問い合わせ先》

奈良国立博物館 特別陳列「お水取り」広報事務局（TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂

MOBILE : 090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

TEL : 050-1807-2919 FAX : 050-1722-9032 EMAIL : omizutori@tm-office.co.jp

展覧会概要

東大寺二月堂の「お水取り」は、正しくは「修しゅ二に会え」といい、二月堂本尊の十一面観音菩薩に対して、二週間にわたって私たちが過去におかしてきた過あやまちを懺悔さんげし、除災招福や鎮護国家、五穀豊穡を祈る法要です。天平勝宝てんぴょうしょうぼう四年（752）に、二月堂を創建した実忠和尚じっちゅうかしょうによって始められたと伝わり、以来1250年を超える年月の間、「不退ふたいの行法ぎょうぼう」として一度も絶えることなく今日に至るまで勤め続けられています。

本展は、お水取り（修二会）が行われる期間（毎年3月1日～14日）にあわせて開催します。

関連する彫刻・絵画・書跡・工芸品・歴史資料を集めて陳列するもので、平成9年（1997）に第一回が行われて以来、毎年好評を博しています。

修二会ぎょうぼうは基本的に非公開の行法であるため、一般にはうかがい知れない神秘性を多く含んでおり、その複雑な行法は長い歴史の中で徐々に形成され、多様な宗教・文化の歴史が織り込まれています。

本展を通じて、このかけがえのない儀礼への理解を深め、その尽きせぬ魅力を感じ取って頂ければ幸いです。

1 練行衆の姿

修二会に参籠する僧侶を「練行衆」と呼びます。毎年、東大寺開山良弁僧正の忌日とされる12月16日に、翌年の修二会の練行衆の名が発表されます。

2 修二会の創始と二月堂観音の靈験

東大寺二月堂修二会は実忠和尚（726～？）によって、天平勝宝四年（752）に創始されました。お堂に十一面観音像を安置して、祈りを捧げることから行法が始まったとされます。二月堂修二会の本尊は絶対秘仏ですが、その靈験は二月堂縁起に示されています。また、右の作品は二月堂本尊にまつわる画像とも考えられています。

二月堂観音は補陀落山からお招きした「生身の観音」であり、極楽往生や病氣治癒など様々な靈験を顕わす一方、不信の者を戒める強い験力を持つといわれています。

雲にのり、海上を飛来する十一面観音を描いた画像です。後方の補陀落山（観音の浄土）には、船で渡海してきた人びとや中腹の楼門、山頂の楼閣までが精緻に描き込まれています。観音の衣に施された緻密な文様や繊細な截金による衣文の描写も注目されます。二月堂修二会の本尊が、補陀落山から海を渡り飛来したという説話を想起させます。



重要文化財 十一面観音像 鎌倉時代（13世紀） 奈良・東大寺



二月堂縁起 室町時代 天文14年（1545） 奈良・東大寺

修二会の創始や二月堂観音の靈験にかかわる説話を集めた絵巻です。図版は、僧・実忠が約百日にわたる祈りを経て十一面観音をお迎えし、東大寺の絹索院、今の二月堂に安置した場面を描いています。※期間中に展示替えあり。

3 水取り

修^{しゅ}二^に会^えは、奈良に春の訪れを告げる「お水取り」として親しまれています。この呼び名は、行の十二日目（3月12日）の深夜に行われる水取りの儀式にちなんだものです。水は仏教において、ほとけを供養するのに重要視され、お水取りの儀式もほとけの供養の有様を伝えるものです。



二月堂本尊^{にがつどうほんぞん}に香水^{こうずい}を供えた後、堂内の参詣者^{さんけいしや}に香水が分けられます。その際に柄杓^{ひしゃく}として用いたもので、注口のついた形はお水取り独特のものです。壺^せの側面に線刻銘^{せんこくめい}があり、制作年代と施入者^{にゅうしや}がわかります。

重要文化財 香水杓

上：鎌倉時代 建長5年（1253）

下：鎌倉時代 建長7年（1255） 奈良・東大寺

4 六時の勤行と声明

二月堂修二会^{しゅにえ}の中心をなすのは、日中^{にちちゅう}・日没^{にちもつ}・初夜^{しよや}・半夜^{はんや}・後夜^{ごや}・晨朝^{じんじょう}という「六時」の行法であり、独特の節を付けて唱える声明^{しょうみょう}が行われます。法要の次第や詩句は次第本に記され受け継がれ、その諸本を比較すると、内容が少しずつ変化してきていることがわかります。

5 二月堂牛玉

修二会^{しゅにえ}では、3月8・9日を「牛玉日^{ごおうび}」と称して、初夜^{しよや}、後夜^{ごや}の大導師^{だいたうし}の祈りの間に、他の練行衆^{れんぎょうしゅう}が内陣^{ないじん}で牛玉札^{ごおうだ}と陀羅尼札^{だらにふだ}を刷ります。

牛玉札^{ごおうだ}は疫病除けの護符^{ごふ}のことで、修二会結願^{けつがん}の日^{にち}に頒布^{はんぷ}されます。

6 参籠宿所

修二会^{しゅにえ}（お水取り）の本行期間中、十一面観音^{れんぎようしゅう}に祈りを捧げる練行衆^{れんぎようしゅう}は、心身を清めるため参籠宿所^{さんろうしゆくしょ}において起居します。宿所は二月堂の西側斜面下、食堂^{じきどう}と棟続きで建っており、登廊^{のぼりろう}で二月堂とつながっています。

7 食堂の作法

食堂^{じきどう}では練行衆^{れんぎようしゅう}が毎日の食作法^{じきさほう}を行うほか、授戒^{じゅかい}、袈裟給^{けさたば}りなどの重要な行事が行われます。

食事は飯、きりあて（大根の漬け物）、野菜の煮物、豆腐、あげ、味噌汁などで、漆塗の器に盛られ、小ぶりの机にのせられます。

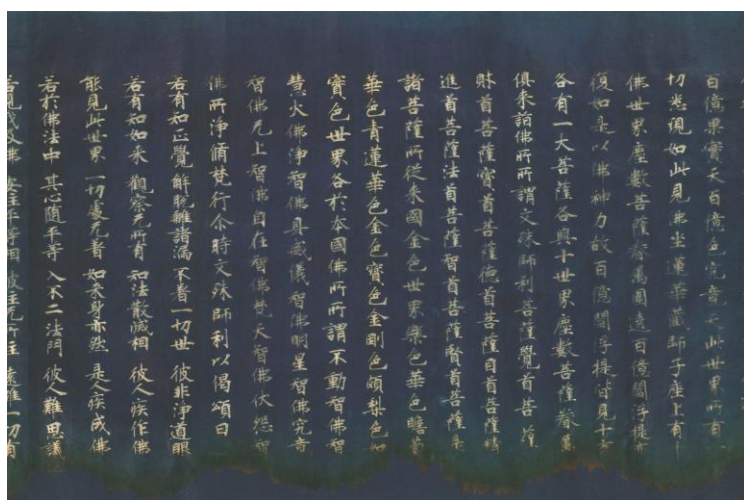
8 おおがんのん こがんのん 大観音と小観音

二月堂修二会の本尊は、「大観音」「小観音」と呼ばれる大小二体の十一面観音です。いずれも絶対秘仏ですが、平安時代後期の図像集（事相書）や、寛文七年（1667）の二月堂火災に際して堂外に出された像の一部と光背などから、その尊容の一端をうかがうことができます。

9 不退の行法 一修二会の継承—

二月堂修二会の歴史は十一面悔過という行法に始まります。当初は小規模でしたが、寺内において重要な法会として認識されていきました。また修二会は広く人々の信仰も集め、参加者が増加するにつれ、二月堂もその規模を拡大していきました。

修二会期間中の2月5日（現在では3月5日）の実忠忌に用いられたと考えられている六十巻本の『華嚴経』で、江戸時代に二月堂が全焼した際、焼け跡から発見されました。一部は焼け焦げながらも、紺色の料紙に浮かび上がる銀色の文字は独特の美しさを醸し出しています。



華嚴経（二月堂焼経） 奈良時代（8世紀） 奈良国立博物館

10 考古学から見た二月堂



現在の二月堂や法華堂（三月堂）が位置する上院地区は、「金鐘寺」や「福寿寺」など東大寺創建以前に遡る堂宇が存在したと言われる場所です。二月堂の前身がどのような建物であったかは未だに謎であるものの、その西側下段に位置する仏餉屋の地下では、奈良時代に遡る掘立柱建物がみつかっています。

二月堂仏餉屋の解体修理に際して実施された発掘調査で出土しました。どんぐり眼に大きな口が特徴ですが、これは平城宮造営のために作られたものとは異なり、東大寺の建設を契機として寺院用にデザインされたものです。本品は鬼瓦のなかでも大型で、その大きさに見合った建物に葺かれていたと考えられます。

鬼面文鬼瓦 奈良時代（8世紀） 奈良・東大寺

同時開催

東大寺ミュージアム 特集展示「学僧たちの修^{しゅ}二^に会^え」

東大寺の修二会は、僧侶たちが十一面観音に対し人々の罪を懺悔^{さんげ}する悔過^{けか}の法要です。そのため、体全体をなげうって懺悔をする五体投地や、本尊を安置する浄域を結界するための密教的な作法など、実践的な修法のイメージが強いかもしれません。しかし、二週間にわたる修二会には經典の内容を確かめ合う講問論義なども含まれており、法要の成就のためには僧侶の学識的な裏付けも必要とされていました。ここでは普段あまり注目されることのない、学僧たちの修学^{がくがく}の場としての修二会をご紹介します。

会 期：2026年2月7日（土）～3月15日（日）

会 場：東大寺ミュージアム 第4室

問 合 せ：東大寺ミュージアム（東大寺総合文化センター）〒630-8208 奈良市水門町100番地

電話：0742-20-5511

ウェブサイト：<https://www.todaiji.or.jp/information/museum/>

【2会場観覧プレゼント】

奈良国立博物館と東大寺ミュージアムの両会場をご覧頂いた方には、限定の特製散華^{さんげ}をプレゼントいたします。どちらかの会場受付にて、もう一方の観覧証明書をご提示下さい。

「特製散華^{とくせいさんげ}」について

今年の「特製散華」の新作デザインは、江戸時代に二月堂が全焼した際にその焼け跡から発見された『華嚴経』（二月堂焼経^{やげきよう}）をあしらったものです。

※二月堂の本尊である観音菩薩の光背の文様に基づくデザインの特製散華も、御用意しています。



『華嚴経』デザイン（新作）



『観音菩薩光背』デザイン

公開講座情報

「東大寺二月堂修二会行事・入門編～参籠する僧侶の役割～」

日 時：令和8年（2026）2月14日（土）午後1時30分～午後3時（午後1時開場）

講 師：狭川普文 師（東大寺長老・東大寺総合文化センター総長）

会 場：奈良国立博物館 講堂

定 員：180名（事前申込抽選制）

申込方法：奈良国立博物館ウェブサイト「参加する」→「講座」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください（申込は、WEBのみとなります。）

受付期間：1月19日（月）午前10時～2月2日（月）17時

抽選結果：申込者全員へ2月6日（金）までにメールにて抽選結果をお送りします。

当選メールが参加証となりますので、メールの画面、または印刷したものを当日必ずご提示ください。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）

※お1人様1つメールアドレスをご用意の上、ご応募ください。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

※参加証で展覧会場に入場することはできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

開催概要

展覧会名：特別陳列「お水取り」

Feature Exhibition: Treasures of Tōdaiji's Omizutori Ritual

会 期：令和8年（2026）2月7日（土）～3月15日（日）

休 館 日：2月16日（月）・24日（火）

※2月9日（月）・23日（月）・3月2日（月）・9日（月）は月曜日ですが開館します。

開館時間：午前9時30分～午後5時

※なら瑠璃絵期間（2月8日～14日）・東大寺二月堂お水取り（修二会）期間（3月1日～14日）中は午後6時まで、3月12日（籠松明の日）は午後7時まで

※入館は閉館の30分前まで

※その他、臨時に開館時間を変更することがあります。

会 場：奈良国立博物館 西新館

観覧料金：一般 700円、大学生 350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

※高大生の方は学生証をお持ちください。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、一般100円引き、大学生50円引きです（親子割引）。

※この観覧料金で、同時期開催の名品展「珠玉の仏教美術」・「珠玉の仏たち」・「中国古代青銅器」をご覧になれます。

主 催：奈良国立博物館、東大寺、NHK奈良放送局

協 力：仏教美術協会

特別支援：DMG森精機

出 陳 品：出陳件数58件（うち重要文化財 16件）

奈良国立博物館ウェブサイト：

特別陳列「お水取り」URL：https://www.narahaku.go.jp/exhibition/special/202602_omizutori/

《報道関係者お問い合わせ先》

奈良国立博物館 特別陳列「お水取り」広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：omizutori@tm-office.co.jp